



ふ る さ と の い の ち を つ な ぐ こ う ち プ ラ ン

生 物 多 様 性 こ う ち 戦 略
【 改 訂 版 】

高 知 県

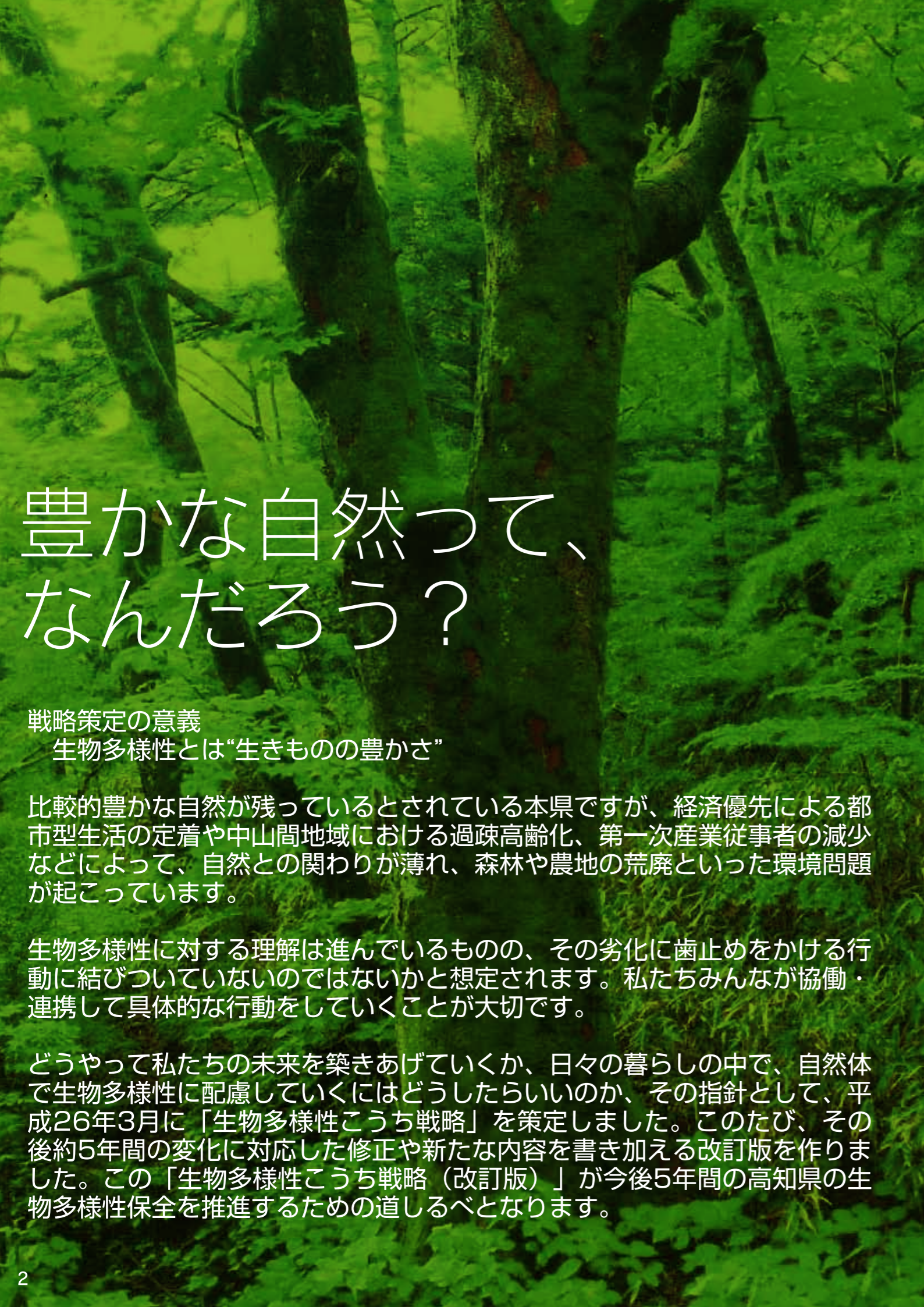
林業振興・環境部 環境共生課
780-0850 高知県高知市丸ノ内 1-7-52
tel.088-821-4554 fax.088-821-4530
E-mail.030701@ken.pref.kochi.lg.jp
平成 31 年 3 月

[こうち戦略](#)

[検索](#)



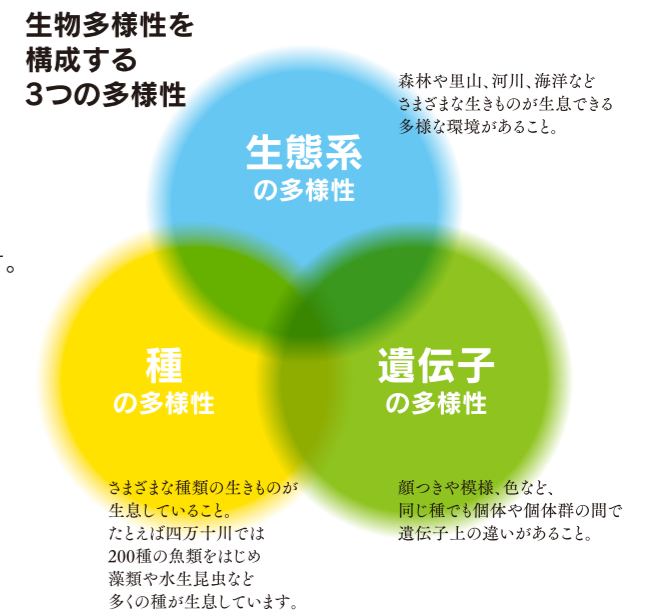
高知県



生物多様性が豊かな高知県

多様な自然環境を有する高知県

私たちが暮らす高知県は、全国有数の森と川、海の県です。
 豊かな雨と日差しは森を元気に育て上げ、県土の84%が森林に覆われています。
 照葉樹林、温帯針葉樹林、夏緑樹林など多様な森林が発達した山々に源を発する
 四万十川や仁淀川、物部川をはじめとする数多くの川は、
 流域に豊かな土壌をもたらしました。
 そして、それらが流れ込む土佐湾は太平洋へと広がり、
 沖合には世界最大の暖流、黒潮が流れています。
 高知県の独特な地形や気候などの自然環境は
 多種多様な生きものたちの生息地をつくりだし、
 生きものたちはそれぞれに固有の変化をとげてきました。
 こうして、高知県では、豊かな自然環境により
 生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性という
 生物多様性を構成する3つの多様性が維持されてきたのです。



生物多様性の4つの危機

しかしながら、高知県においても土地開発などの地形改変、
 森林や農地の転用といった
 生きものの生息環境の減少をもたらす**人間活動による危機**、
 里山の荒廃など**自然に対する働きかけの縮小による危機**、
 生態系の質的劣化をもたらす汚水や廃棄物の排出、
 外来種の増殖といった**人間が持ち込んだものによる危機**、
 海水温の上昇などによって藻場が消失するなどの**地球環境の変化による危機**といった
 さまざまな形で生物多様性の破壊が進んでいます。
 高知県の資源であり、貴重な財産でもある自然を、人の暮らしとの調和を図りながら守り、
 将来の子どもたちへとつないでいくことは、今を生きる私たちに課せられた使命です。
 高知の人と自然が作り上げてきた高知の風土は、高知にしかありません。
 県民の皆さん一人ひとりが、自分たちの暮らしと自然を守っていく方法を考えましょう。

豊かな自然って、 なんだろう？

戦略策定の意義 生物多様性とは“生きものの豊かさ”

比較的豊かな自然が残っているとされている本県ですが、経済優先による都市型生活の定着や中山間地域における過疎高齢化、第一次産業従事者の減少などによって、自然との関わりが薄れ、森林や農地の荒廃といった環境問題が起こっています。

生物多様性に対する理解は進んでいるものの、その劣化に歯止めをかける行動に結びついていないのではないかと想定されます。私たちみんなが協働・連携して具体的な行動をしていくことが大切です。

どうやって私たちの未来を築きあげていくか、日々の暮らしの中で、自然体で生物多様性に配慮していくにはどうしたらいいのか、その指針として、平成26年3月に「生物多様性こうち戦略」を策定しました。このたび、その後約5年間の変化に対応した修正や新たな内容を書き加える改訂版を作りました。この「生物多様性こうち戦略（改訂版）」が今後5年間の高知県の生物多様性保全を推進するための道しるべとなります。



横倉山山頂近くの空池



宿毛市の昔ながらの川の風景



本山町に残る棚田



多様な地質や地形が特徴的な室戸シオハーブ



川沿いに葎原が広がる高知市の国分川



こうちの自然のいま



私たちが心豊かに、そして安全に暮らしていくために不可欠なもの。それは、安心して食べられる食料と危険の少ない快適な生活環境ではないでしょうか。それらを提供してくれるのは、なによりも豊かな自然。ときに自然は、台風や地震といった過酷な災害をもたらしますが、多様な自然を織りなす山や川、海、そして里（里地里山）は、清浄な空気や水、さまざまな動植物の生息・生育環境を提供してくれています。

山の暮らし、川の暮らし、里の暮らし、海辺の暮らし。それぞれの暮らしの中で、農林漁業などの産業や食べ物、文化が自然との営みの中から生まれてきました。そして、私たちの暮らしは自然から恵みを受けると同時に、自然に大きな影響を及ぼしながら形作られてきたのです。

いま、高知の自然は静かな曲がり角を迎えています。過疎高齢化や都市化の進展がもたらした現在の高知の自然が抱える課題をまとめました。

山 川 里 海 まち

🌿 奥山に残る原生的な森林
奥山には原生的な森林が僅かに残り、生物多様性が確保された地域となっています。

👉 手入れが不十分な森林
手入れが行き届かない森林が見られ、その管理を行っていく必要があります。

👉 野生動物による食害
ニホンジカの増加などによって、自然植生の被害が顕著になっています。

- 課題**
- 1. 奥山環境の維持
 - 2. 林業の活性化と担い手の確保
 - 3. 有害鳥獣対策
- など

🌊 清流が多い
四万十川や仁淀川などアユ釣りや水遊びのできる清流が残っています。

👉 瀬・淵の減少
かつての河川改修などで瀬・淵の損失など、動植物の生息環境が変化しています。

👉 外来種の増加
外来種の植物や魚類が増え、本来の生態系を圧迫しています。

- 課題**
- 1. 土砂・水の動きに配慮した川づくり
 - 2. 山林保全など濁水発生源対策
 - 3. 外来種対策
- など

🌾 棚田が多い
生物多様性の高い生態系と雨水貯留機能を持つ棚田が残っています。

👉 耕作放棄地の増加
人口流出による耕作放棄地や管理不足の田んぼが増え、竹林や外来種が進出しています。

👉 特定の野生生物の増加
ニホンジカやサルが増加し、自然植生だけでなく田畑での被害も増加しています。

- 課題**
- 1. 農業従事者の確保と適正管理
 - 2. 有害鳥獣対策
 - 3. 外来種対策
- など

🌊 黒潮の恵みを楽しむ
黒潮の流れと川がもたらす山の栄養により多様な魚類などの恵みがもたらされています。

👉 磯焼けの増加
温暖化で海水温が上昇し、藻場が消失する磯焼けが発生しています。

👉 砂浜の減少
陸からの土砂供給の減少などにより、砂の供給バランスが変化し、砂浜が減っています。

- 課題**
- 1. 生態系に配慮した公共事業の推進
 - 2. 藻場の再生
 - 3. 人と自然が共生する持続可能な里海づくりの推進
- など

🌿 豊かな生態系
高知市の都市部としては珍しく魚や鳥など希少な動植物が生息する環境が残っています。

👉 外来種の増加
土地開発で発生した裸地に多くの外来種が定着し、街路樹にも外来種が利用されています。

👉 都市化の進行
まちの拡大により緑地や水辺が減少しているほか、温室効果ガスの主な発生源となっています。

- 課題**
- 1. 環境に配慮したまちづくりの推進
 - 2. 公共交通の利用などの温暖化対策
- など



ニホンジカの食害により荒廃する山頂



シカの食害による被害（2000年）



（2013年）



管理不足で下層植生のみられない人工林



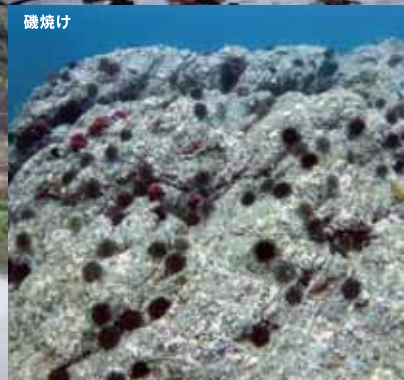
外来種ホテイアオイの増殖



河川改修による変化（1973年）



（2019年）



磯焼け



オニヒトデによるサンゴの食害



耕作放棄地に迫る竹林



衰退する砂浜



野生化した外来種のおオキンケイギク



高知市内の河川で憩う鳥



四国では生息頭数がわずかなツキノワグマ



アユの産卵



生息地が減少しているヤブレガサモドキ



湿地に暮らすシオマネキ



人々を魅了するヒメノボタンの群生



産卵場が消失しつつあるオオイタサンショウウオ



沖の島の造礁サンゴ群集

中筋川(宿毛市) 瀬流のホタルの乱舞



こうちの生きもののいま

高知県には、約 8,000 種の動物と約 3,000 種の植物などさまざまな生きものが生息・生育しています。

しかし、高知県でも自然環境の質的変化が進んでおり、たとえばツキノワグマやヤブレガサモドキなど多くの生きものが絶滅の淵に立たされています。

地球規模では過去に少なくとも 5 回の大絶滅がありましたが、これらは火山の噴火や隕石の衝突など自然災害が原因でした。現在は、6 回目の大量絶滅時代と言われており、その主な原因となっているのは私たち人間の活動です。

地球上の種の絶滅スピードは過去に比べると約 100 ~ 1,000 倍にも達すると言われています。

いま、高知の生きものたちはどのような状態にあるのでしょうか。

山

四国山地を中心とする奥山の自然林にはツキノワグマなどのさまざまな生きものが生息しており、生育地に限られる植物も自生しています。しかし、かつての人工林の拡大などでその生息域は限られており、ニホンジカによる食害も広がっています。

川

純淡水魚のほか、アユなどの通し回遊魚、アカメのような汽水・海水魚など多様な魚類が生息しています。しかし、アユにみられる冷水病などの感染症や異常気象による生きものへの影響も生じています。また、オオクチバスなどの外来種が一部で繁殖しており、在来生物を脅かしています。

里

田畑や果樹園、雑木林、社寺林、用水路などの二次的自然による景観が形成されています。田んぼや水路には湿地生の植物が自生して、サンショウウオなどの希少な動物も生息していますが、休耕田や外来種の繁殖などで生息環境が変化しています。

全県的課題 研究体制の強化

生物群ごとの継続的なモニタリング調査の実施など研究体制の強化が求められています。

海

土佐湾にはカツオやマグロ、イワシなどさまざまな魚種が出現し、ニタリクジラなどの鯨類も頻繁にみることができます。しかし、本県の沿岸部でも生物多様性にとって深刻な問題となっている海洋プラスチックゴミの漂着が見られ、アカウミガメの産卵への影響や碎片が生態系に与える影響が危惧されています。また、磯焼けが進んでいる藻場では、造礁サンゴ群集に取って代わられつつありますが、そのサンゴも食害や白化現象に見舞われています。

まち

まちには緑や水辺が周辺に多く存在し、さまざまな野鳥や昆虫、魚類が確認されています。たとえば、高知城の城山や五台山などは動物の移動経路やねぐらとしても利用されており、生きものの生息場所を確保するためにも、自然に配慮したまちづくりを進める必要があります。



森を守る防護ネット



シカの食害



トチノキの葉を食べるシカ



高知市内で捕獲されたカミツキガメ



高水温で白化したサンゴ



放置された網にひっかかったウミガメ



海岸プラスチックゴミの漂着

3

ここの暮らしのいま



私たちは山や川、海などの自然と共に暮らしています。
農産物や魚などの食べものを得るだけでなく、
ほんの少し前の時代までは、薪や炭などの燃料、
木材や茅などの住宅資材を手に入れ、
日々の暮らしに必要な布や紙などを作って生活を営んでいました。
現在の「便利で快適な暮らし」からは
想像しにくいかもしれませんが、
農業や林業、漁業といった自然相手の生業だけでなく、
あらゆるモノ・コトが自然との共生の中で育まれてきたのです。

いま、私たちの暮らしから
自然はだいぶ遠ざかっているように思います。
昔に戻ることは難しいかもしれませんが、
かつての暮らしから学ぶこと、
受け継ぐことはたくさんあるのではないのでしょうか。

全県的課題

第一次産業の振興、伝統産業の継承
過疎高齢化の進行により、
第一次産業や伝統産業の担い手の確保が重要です。
また、食文化、祭事といった
一次産業と密接にかかわる物事の継承も重要となっています。

全県的課題

環境教育の充実
子どもたちや若い世代の自然離れが進んでいるため、
自然の重要性を子どもたちに伝える指導者の確保、
環境教育の充実を図る必要があります。



農業

農業は、田んぼが貴重な湿地帯を生きものに提供し、
生物多様性の保全に貢献している一方、
自然の循環機能を利用するという点では生物多様性に依存した産業ともいえます。
夏は高温多雨、冬は温暖多照という恵まれた気象条件をベースに、
水稲、野菜、果実、畜産物などの生産が活発に行われています。
ハウス栽培も盛んで、ナスやピーマンなど園芸野菜の産地としても全国的に知られています。
高知県では、環境保全型農業の推進やブランド化による販路拡大などの
さまざまな取り組みを進めています。



林業

高知県は森林面積率が日本で、
林業は県経済を支える
重要な産業となっています。
高知県では、植えて、育てて、
伐って、また植える持続的な循環
型の林業を進めています。



漁業

カツオやアユ、アオノリなど
全国的に知名度の高い
水産資源が多くみられ、
カツオのたたきなどで知られる
豊かな食文化を支えています。
高知県では、海面・内水面漁業の振興に向け、
資源管理や、土佐黒潮牧場の整備など、
さまざまな取り組みを進めています。



食文化

沿岸部や山間部など
それぞれの地域の風土に根ざした
食材や料理が伝えられています。
しかし、過疎高齢化の進む地域では
その維持が困難になりつつあります。



伝統産業

土佐和紙、土佐珊瑚、竹細工など
豊かな生物資源を材料とした
伝統的な特産品が知られています。
品質の良さにも定評がありますが、
多くが後継者不足に陥っています。



自然との関わり

自然豊かな高知県は、川遊びや海水浴、虫取りやどろんこ遊びなど、
自然の中で存分に遊び、たっぷり学ぶことができる環境にあります。
子どもも大人も自然と共に遊ぶことで
生きもののすみかや遊びの知恵を学ぶことができます。
しかし、社会情勢や生活様式の変化によって
自然とふれあう機会は昔に比べるとずいぶん減り、
自然を身近に感じる機会が少なくなっています。

祭祀

スギやヒノキなどの神木、
社寺林などの祭祀空間が
自然と共に残されていますが、
管理・継承できる人が
過疎高齢化で減り続けています。





生物多様性に支えられる、 私たちの未来

高知のすべての自然や命を、私たちの手で責任を持って未来へ

「便利に、快適に、安全に」を追い求めてきた近代化の波の中で、高知県内でも農山漁村からまちへ人口の比重は移りつづけ、結果として、人々が自然と関わる機会が圧倒的に少なくなってしまいました。

また、5年間の経年変化をもとに生物多様性の現状を見ると、山から海にかけて各エリアとも悪化傾向にあるといえます。

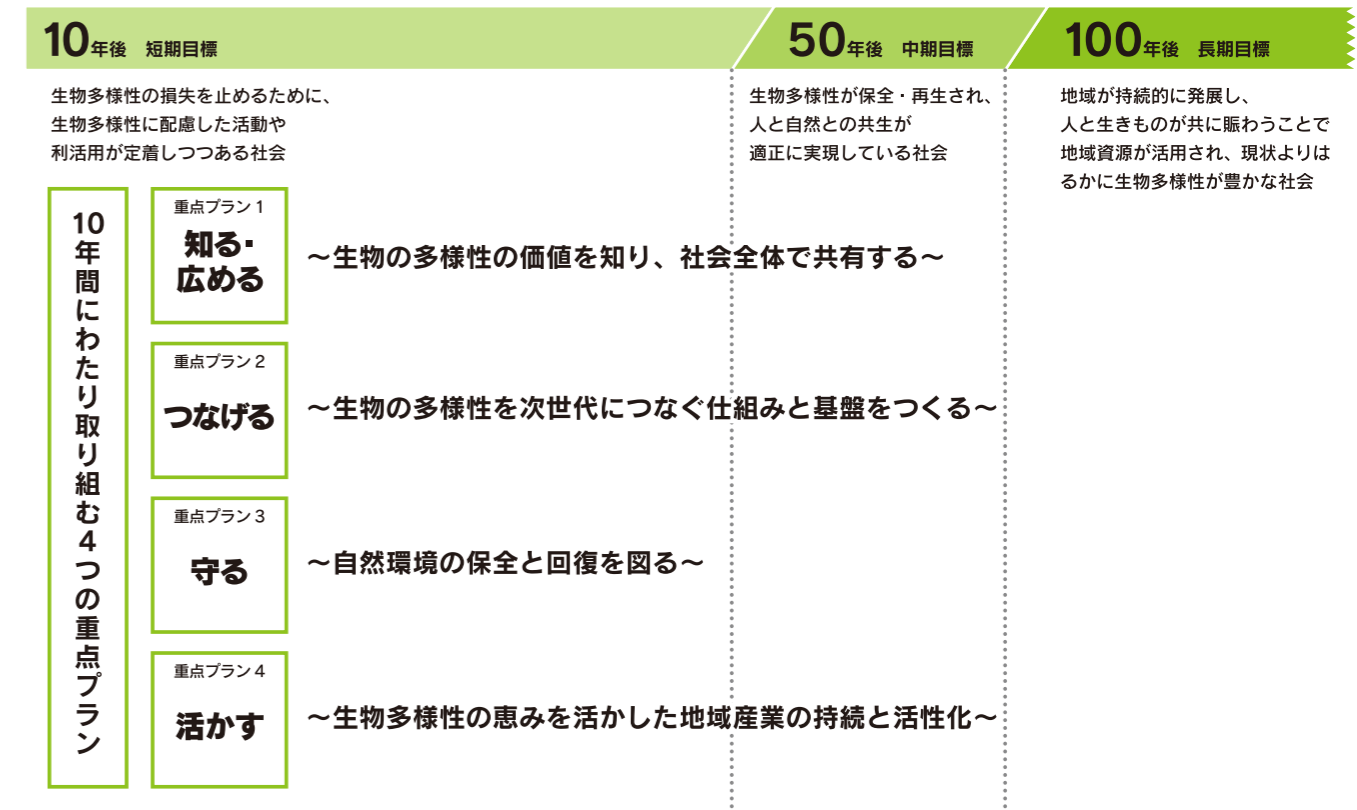
私たちの生活がいかに生物多様性に依存し、影響を及ぼしているのかがわかり始めたいま、私たちは自然への理解を深め、生物多様性を保全・再生していく取り組みをはじめなければなりません。

それには、県民、事業者、教育・研究機関、NPO等民間団体、行政などがそれぞれ協働・連携することが必要です。

「生物多様性こうち戦略」は山・川・里・海・まちの健全なつながりや生態系のネットワークを重視し、100年先も地域が持続的に発展していくことを目指して取り組みを進めるため、基本理念を以下のように掲げます。

基本理念 **ふるさととのいのちをつなぐ**
～豊かな生きものの恵みを受けて美味しく 楽しく ずっと暮らそう高知県～

そして、50年先、100年先の未来をみつめながら、今後10年間の取り組みを4つのプランにまとめました。



行動計画と将来イメージ

4つの重点プランをもとに、12の取り組みとその具体的な行動計画を定めました。

山から海へと流域が関連し合い、

里やまちなどエリアごとに自然と暮らしが一体となる姿を将来のイメージとします。

重点プラン 1

知る・広める

～生物の多様性の価値を知り、社会全体で共有する～

取組 1 生物多様性の普及と啓発を図るために、生物多様性の保全活動の事例などについて情報を発信するとともに、研修会やイベントの開催などの普及啓発に取り組みます。

取組 2 学校校内での環境教育の充実や、地域の自然や生きものと生活や歴史などの関わりを教育の場に活用するなど地域の生物多様性から学ぶ教育を推進します。

取組 3 地域の魅力を活かした景勝地や公園の整備を進めるとともに、自然体験型のイベントや観光を推進し、身近な自然とふれあえる場の整備と五感で感じる機会を提供します。

重点プラン 2

つなげる

～生物の多様性を次世代につなぐ仕組みと基盤をつくる～

取組 1 野性動植物の生息・生育環境や絶滅危惧種、外来生物の侵入・定着の調査の実施など生物多様性の調査と研究を進めていきます。

取組 2 生物多様性こうち推進リーダーなど普及・啓発を担う人材の育成を進めるとともに、環境保全活動を支援する体制の整備などにより、生物多様性保全・回復のための体制を強化します。

重点プラン 3

守る

～自然環境の保全と回復を図る～

取組 1 山・川・里・海・まちにおける環境や生きものなど生物多様性を確保していくための事業を進め、すぐれた自然環境を保全し、管理します。

取組 2 希少野生動植物の不当な採捕の防止や保護区等の見直しなどにより、希少野生動植物等を保護していきます。



山 たくさんの生きものがすみかとし、保健休養の場としての役割も持つ天然林と人工林がバランス良く配置された清らかな水や豊富な木質資源をもたらす森

川 山林からの適度な土砂供給と健全な浸食・運搬・堆積作用により瀬・淵・砂州からなる多様な河床形態が維持された川

里 地域資源の持続的利用により生態系が維持され、伝統・文化を受け継ぎながら人と自然が共生する里

まち いたるところに緑があふれ、水質浄化や再生可能エネルギーの活用、清掃活動など環境に配慮した市民生活が日常化したまち

海 陸と一体となった取り組みにより維持される干潟や藻場、サンゴ群集と持続的に水産資源が供給される海

重点プラン 4
活かす
～生物多様性の恵みを活かした地域産業の持続と活性化～

取組 3 特定鳥獣の個体数管理と外来生物対策の推進を図るため、特定鳥獣や侵略的外来生物について、普及啓発及び個体数管理や駆除などを推進します。

取組 4 文化環境評価システムの活用や環境アセスメントの実施など生物多様性に配慮した公共工事に取り組みます。

取組 5 再生可能エネルギーの普及や省エネ活動、3Rなどの推進により、地球温暖化の防止や循環型社会の構築に向けて取り組みます。

取組 1 生物多様性に立脚した地域資源の活用の促進を進めるため、高知県の食文化や和紙、珊瑚などの伝統産業の維持と振興、生物多様性に配慮した一次産品や加工品の利用を促します。

取組 2 農林漁業の担い手育成や地場産品のブランド化、生物多様性に配慮した環境整備や新品種・技術の研究などを行い、生物多様性と密接な関係を有する一次産業を強化します。

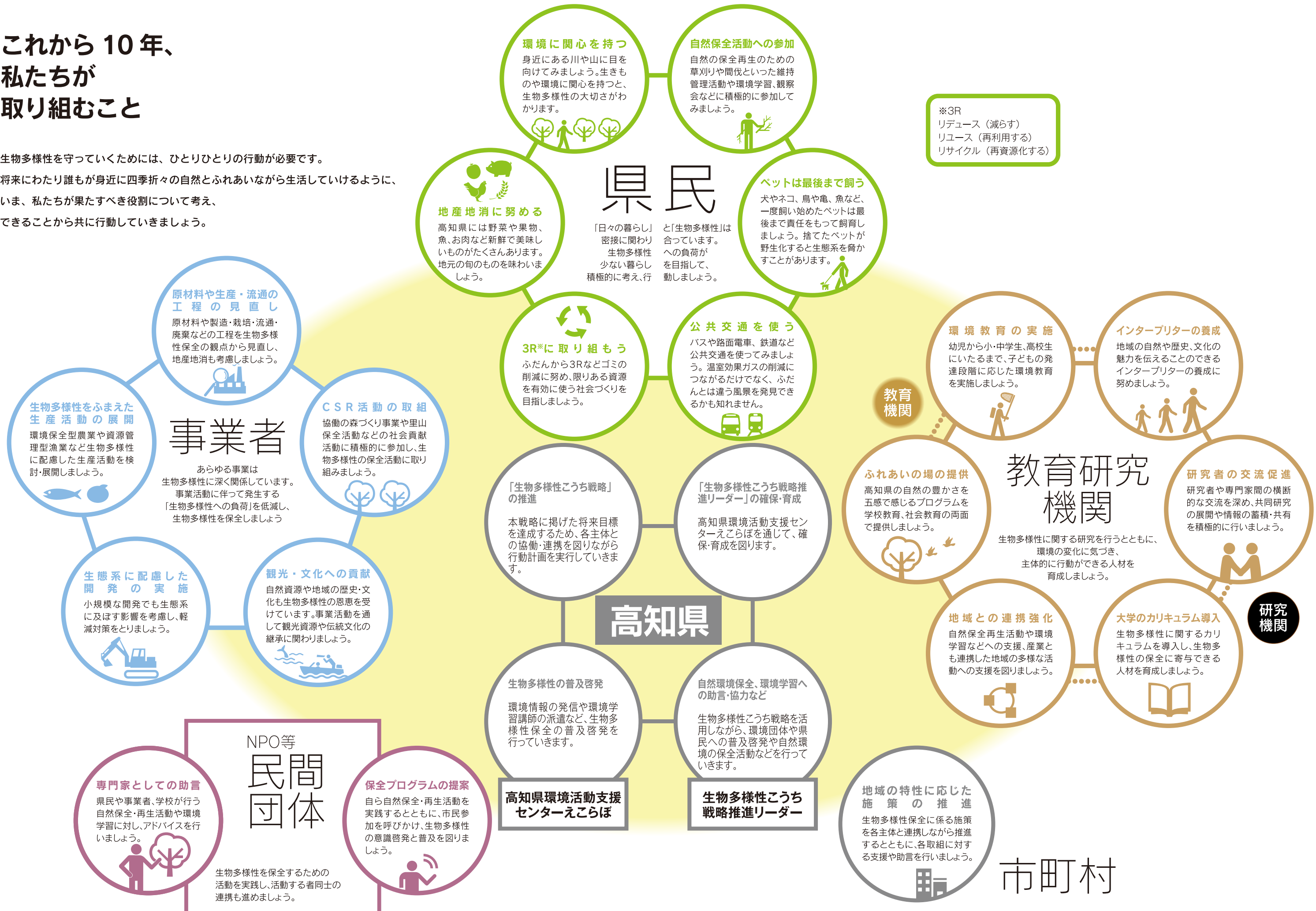
これから 10 年、 私たちが 取り組むこと

生物多様性を守っていくためには、ひとりひとりの行動が必要です。

将来にわたり誰もが身近に四季折々の自然とふれあいながら生活していけるように、

いま、私たちが果たすべき役割について考え、

できることから共に行動していきましょう。



※3R
リデュース（減らす）
リユース（再利用する）
リサイクル（再資源化する）